



## ■最近の話題

### 令和元年度ほ場整備「営農構想発表会」を開催しました

#### 1 はじめに

県では、ほ場整備を契機に将来の目指すべき地域農業を実現させ、農業者の所得向上を図るための取組として、令和2年1月31日に営農構想発表会を開催しました。

本県では初の試みでしたが、約120名の参加者の中、令和2年度新規採択予定地区である4地区の生産者の代表が、地域農業の将来像や営農構想の実現に向けた取組について発表しました。

#### 2 開催経緯

令和元年度は、県内19地区において、ほ場整備事業を行っており、農作業の省力・低コスト化を図る農地の大区画化、高収益作物への転換を可能とする水田の汎用化・畑地化などの基盤整備を実施し、担い手への農地集積・集約化や農業の高付加価値化に取り組んでいるところです。

ほ場整備の実施を契機に高収益作物へ転換し、儲かる農業を実現するためには、地域の方々の想いと事業の趣旨に合致した営農計画を立て、これまで以上に関係各所との連携や関係者同士の意識や情報の共有が重要と考え、「営農構想発表会」を開催することとしました。

本発表会のモデルは、お隣の秋田県であり、秋田県では、コメ依存から脱却し、複合型生産構造へ転換していく「あきた型ほ場整備」として、高収益作物の産地づくりと一体となったほ場整備を展開しています。その取組のひとつとして、営農構想発表会を実施しており、当県でもそれを参考に発表会を開催しました。

#### 3 今後の取組

本県では、今後も本発表会の開催を続けるとともに、さらに良い取組等も取り入れながら、関係者一丸となって、地域の発展及び所得の向上を目指す一助となるような事業を展開していきたいと考えています。



発表会の様子



地区代表者による発表

## ■「環境公共」事例紹介

### 奥戸漁港での環境配慮について

### ～マグロ漁に用いる活餌への配慮について～

#### 1 はじめに

奥戸漁港は、下北半島北端の大間町にあり、津軽海峡に面しています。地域では、まぐろはえ縄漁や刺し網漁、採貝・採藻漁業などの沿岸漁業が営まれており、特にクロマグロは「大間産マグロ」として全国トップクラスのブランド力を持ち、東京の豊洲市場でも好評を得ています。

漁港内に係留されている漁船の船倉には、まぐろ漁に使用するイカなどの活き餌が入っており、ポンプで漁港内の新鮮な海水を取り込むことにより鮮度を保っています。

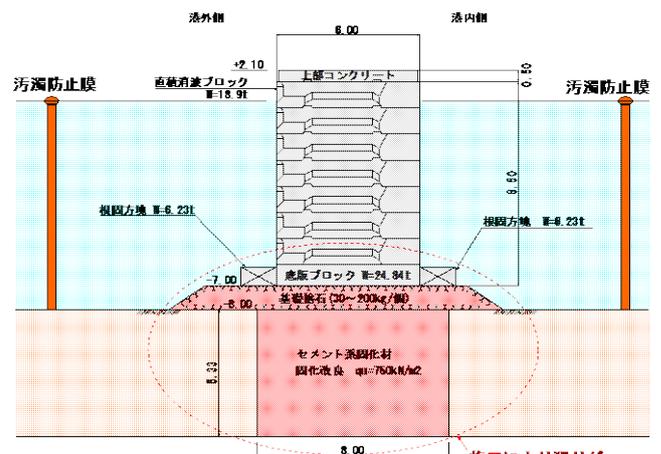
今回の環境公共事例は、突堤の工事に伴い発生する海水の濁りが活き餌に影響を与えない取り組みを紹介します。



#### 2 水質汚濁防止対策

奥戸漁港で実施した工事は、計画位置の地盤が軟弱なため、セメント系固化剤を用いて海中で地盤改良を行い、その上に基礎捨石マウンドを構築し、さらに、コンクリートブロックを積み重ねて突堤を造るものです。工事では、地盤改良時及び基礎捨石投入時に濁りの発生が懸念されました。

そこで、本工事では濁りの拡散防止対策として、施工区域を囲むように汚濁防止膜を設置し、濁りが周辺へ拡散しないような施工を計画しました。



突堤と汚濁防止膜の標準断面図

#### 3 対策の結果



地盤改良の施工状況

汚濁防止膜を設置したうえで、地盤改良時のセメント系固化剤が地盤面から噴出ししないよう細やかな施工管理を行ったほか、基礎捨石投入時には海面まで投入バケットを降ろして、石材の落下高さを下げるなど濁りの発生を極力抑える施工をしました。

その結果、濁りの拡散による活き餌への影響も見られず、無事に工事を終えることができました。